



寒川町におけるSSP（ストリートスポーツパーク）整備と 地方創生の取り組みについて

令和7年4月21日



1. 今後、**生産年齢人口**を中心とした**人口減少**社会が到来

➡町の人口ビジョンでは総人口が2023年49,029人から2065年に35,661人に減少（約27%減少）

若い子育て世代は男女ともに転入超過（多くは県内近隣市から）

2. それに対し、**20歳代前半の転出超過**が課題

持続可能なまちづくりを進めていくうえでも、**若い人に**

3. 選び続けてもらえるような**町独自の魅力の発信**が必須（定住人口・関係人口の獲得）

Q、寒川町は若い人に選ばれるまちか？

→ 若い世代からも評価される環境要因はある。

しごとが確保されている

製造業を中心にしごとを確保。
(一人当たりの第2次産業生産額は県内1位)

RESAS (地域経済分析システム) 生産分析

通勤しやすさ

- ・東京、横浜圏、近隣市へ通勤しやすい
(町内3駅、圏央道IC2か所)
 - ・町内のしごと確保されている
(昼夜間人口比率 94.7%)
- 社会・人口統計体系
(2023年3月31日時点)

住宅取得しやすさ

安価で取得しやすい
<令和7年地価公示>

平均地価：近隣市178,940円/㎡
町 130,700円/㎡

子育てしやすさ

- ・保育所待機児童1桁
- ・産後の不安を支える細やかなサポート

子どもの教育充実

- ・全校に外国人指導者(FLT)常駐
- ・ICT教育の推進

治安がいい

- ・令和6年刑法犯罪212件
- ・ほぼ自転車盗などの軽犯罪

住みやすい環境

- 住民アンケートでの上位項目
- ・治安の良さ、自然災害の少なさ
 - ・豊かな自然環境

しかし、都心が近く、近隣市（藤沢市、茅ヶ崎市、海老名市、平塚市など）も強い中、

このままで**寒川町が選ばれ続けるのか？**

Q. 強い自治体に囲まれた小規模自治体が**選ばれ続ける**には？

今更、東京や横浜はもちろん、近隣市と比較しても勝ることもなく、
同じようなまちづくりを進めても人口流出は続く...

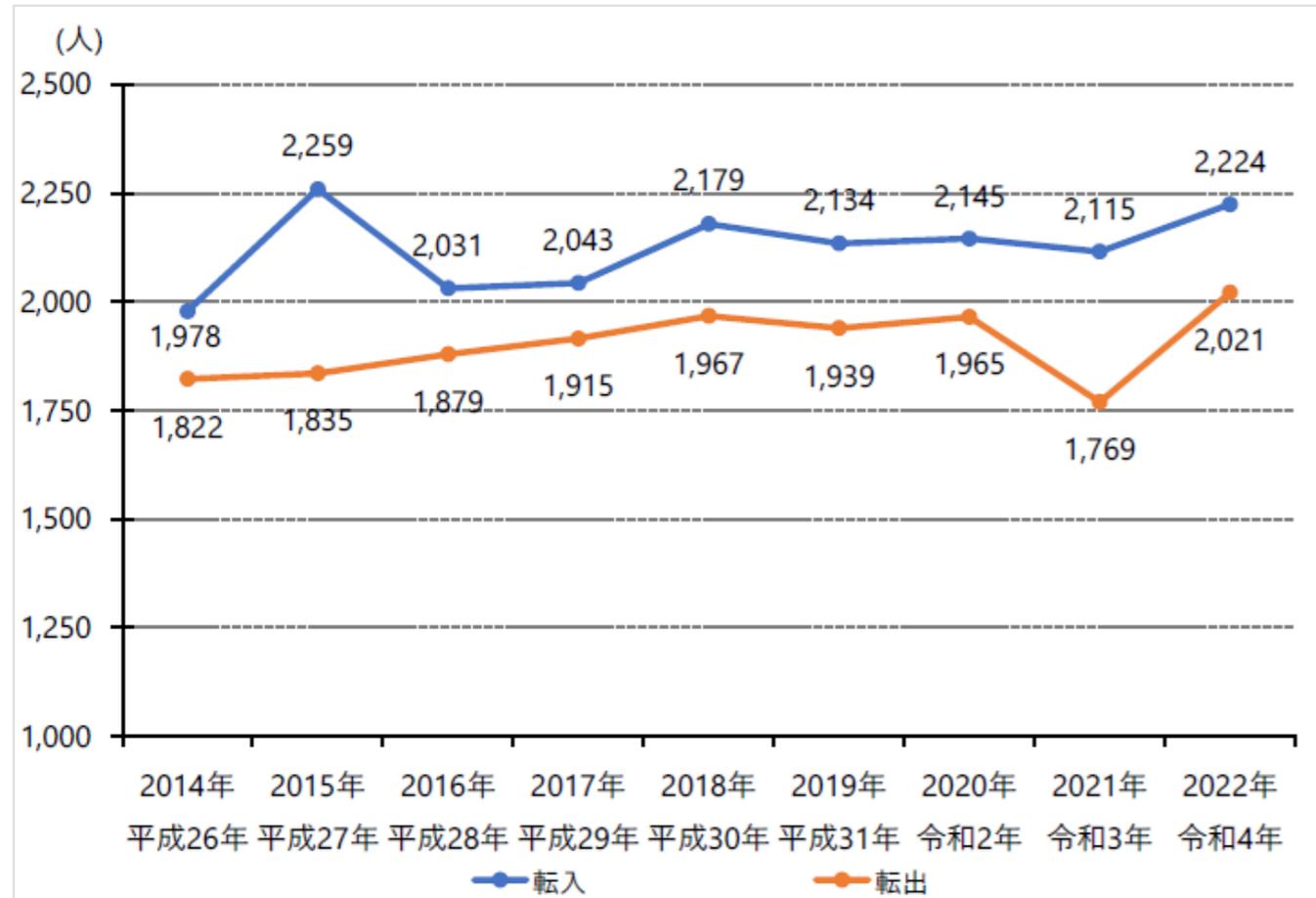
→ 近隣市の魅力も取り込みながら
寒川町だけの魅力を創出

しなければならない。



寒川町における地方創生の取り組み

【図表】2-5 社会増減の推移



出典：寒川町人口ビジョン（令和6年3月改訂）

人口動態の傾向は社会増による人口微増が続いている状況にある。

その要因は、製造業を基盤とした雇用力による仕事をきっかけとした若者と住宅購入をきっかけとしたファミリー層が多く、近隣市からの転入割合が高いことが特徴である。

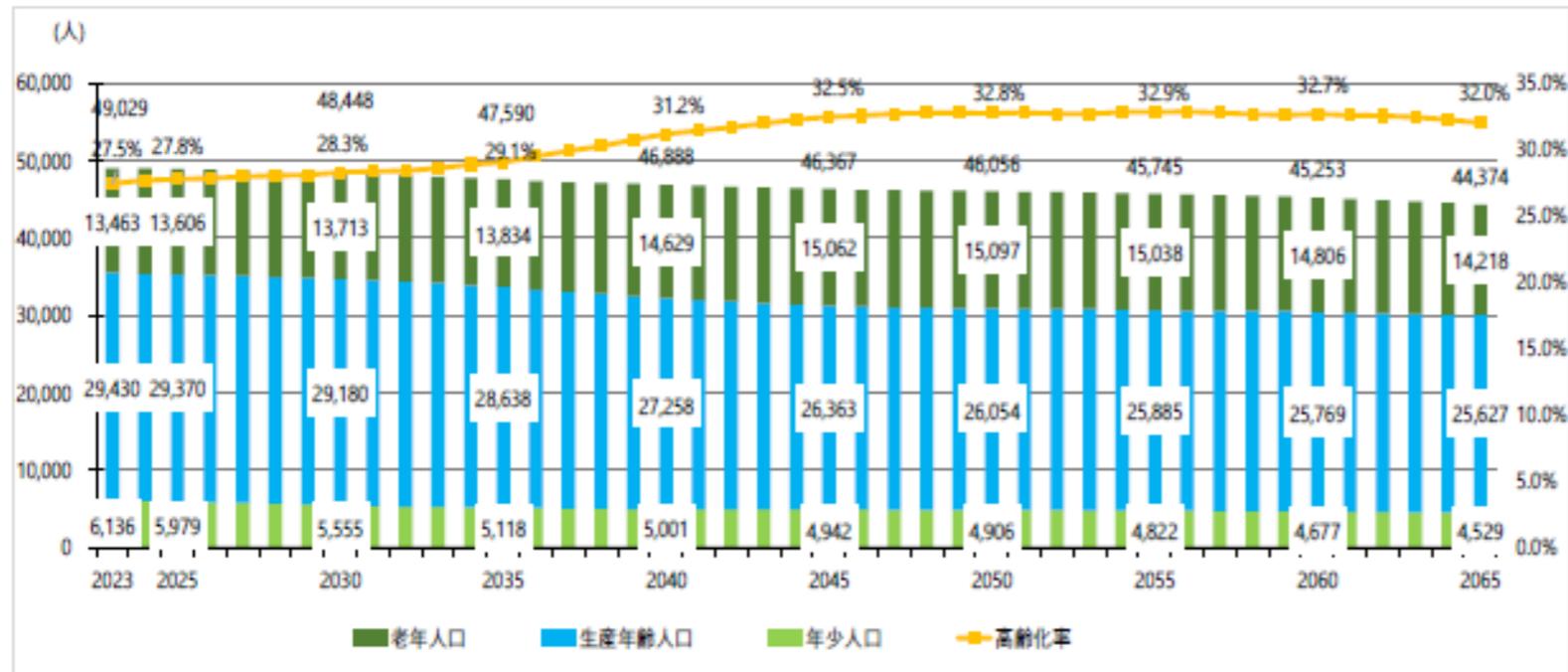


- ・コロナの収束に伴い、都心への人口集中が戻りつつある。
- ・全国的に人口が減少している中、若年層の人口獲得は、さらに困難になることが予想。
- ・これまでのファミリー層（住宅購入）の獲得による人口増加モデルにもいずれ限界。
- ・労働市場の変化
- ・これまでと違うアプローチが必要。

取り組みの背景（地方創生）について

寒川町における地方創生の取り組み

【図表4-1】人口シミュレーション結果



出典：寒川町人口ビジョン（令和6年3月改訂）

人口減少フェーズに突入していくことが予測され、若年層を取り込むための取り組みが激化する中、**近隣市と類似した施策やサービスを展開したとしても、寒川町が埋もれてしまう。**



寒川町の特徴を理解し、それに見合った取り組み（町ブランド推進）を行うことが地方創生を実現するために重要と考える。

寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第3期）計画年度：R7～R10

～ 少子高齢化・人口減少への対応を目的に計画を策定 ～



4つの基本目標

- 1 地域全体で「さむかわ」の経済成長を支え、安定した「しごと」を育みます
- 2 多様なつながりにより、新しい人の流れをつくります
- 3 心にゆとりのある子育てができる環境をつくります
- 4 発展し続ける「さむかわ」をみんなで作ります

寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第3期）計画年度：R7～R10

～ 少子高齢化・人口減少への対応を目的に計画を策定 ～

■ 基本目標2 多様なつながりにより、新しい人の流れをつくります

関係人口の獲得

スポーツ

仲間とのつながりを通して認め合える機会を提供し、運動やスポーツの継続を促すことで、移住・定住、または、まちづくりへの参加、参画につながる関係人口の創出につなげる。

主な取り組み

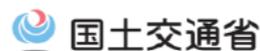
- 町外住民と町民との交流機会を創出
- イベント情報の町外の周知
- 民間スポーツ施設との連携



町のブランドとの親和性が高く、かつ、マーケティングに基づいた効果的な施策として重要と考えている。

取り組みの背景（地方創生）について

データによる根拠（体育施設における関係人口との相関）



人口1万人当たり関係人口(訪問系)の分析

(3)10万人以上/5万以上10万人未満/5万人未満 ①アクティビティ指標

○ 「③博物館施設数（類似施設含む）」、「⑥社会体育施設・民間体育施設数」、「⑨空港までの所要時間」、「⑭地域おこし協力隊数」では人口規模が小さいほど相関係数が比較的高くなっている。「⑦政令市・東京までの所要時間」では人口5万人以上10万人未満において相関係数が比較的高くなっている。

●人口1万人当たり関係人口(訪問系)と各評価指標の相関係数



注1：相関係数が絶対値0.2以上の場合（一定の相関関係がみられる）、相関係数のラベルを下線表示している。

11

関係人口データを用いた様々な評価指標との相関分析（国土交通省R4.6月）によれば寒川町の規模である人口5万人未満の市町村において、「体育施設」が関係人口との相関が比較的高いとされています。

寒川町において、**日本・世界で唯一の魅力のある体育施設**を整備すれば、多様な地域から定期的・継続的に訪問してくれる人を確保できる可能性が高いと考えます。

※関係人口（訪問系）とは
 “特定の地域やコミュニティに対して、多様に関わる人々を示す用語です。
 関係人口が地域と多様な関わりを持つことで、地域経済や地域交流が活性化します。
 その結果、地域の特産品や文化が広がり、新たなビジネスや雇用機会が生まれるなど、持続可能な発展が期待できることから、関係人口の獲得は持続可能なまちづくりに重要であると言われています。

出典：関係人口データを用いた様々な評価指標との相関分析（国土交通省・R4年6月）

Q、若い世代から評価される暮らしの価値とは？

孤独・ストレス社会の中で、
日常となる平日の仕事を支える非日常における暮らしの価値の向上



都市部・大規模市街地では多様化するニーズに
網羅的に対応し、自分らしさや自己実現を可能にしている。

→ 寒川町では網羅的に対応できない。

寒川町の強みを生かしてONLY-ONEで尖らしていく！



寒川町の「SWOTクロス分析」

「強み」×「機会」を生かした施策が特に効果が高いといわれている



	「機会」	「脅威」
「強み」	<ul style="list-style-type: none"> 寒川町に受け継がれる「高座」のこころ。のブランド化 年間約200万人の参拝者が訪れる寒川神社 産業集積拠点としての田端西地区のまちづくり 都市未来拠点としての倉見地区のまちづくり ストリートスポーツによる町おこし Well-beingを重視した国の政策 持続可能なまちづくりに向けた地方創生の取り組み推進 体育施設の充実による関係人口の確保 インバウンド需要が好調 	<ul style="list-style-type: none"> 大型商業施設を持つ近隣自治体との人口獲得競争が激化 地方経済の低迷による地方税の減収 増え続ける社会保障費 近隣自治体との若年層を取り込むための競争が激化 高齢者単身世帯の増、デジタルの進化に伴う地域における人とのつながりの希薄化 労働市場の変化、物価高騰 国際情勢の変化による不透明な先行き
「弱み」	<ul style="list-style-type: none"> 心豊かに暮らせる環境を生かしたWell-beingを重視したまちづくり (豊かな自然環境、安定した雇用、交通利便性、生活のしやすさ、町財政の健全性など) Well-beingを感じられる拠点の整備 自然や歴史を生かしつつ、ニーズのある施設を設置すれば、さらに人が集まる可能性が高い ストリートスポーツを生かした関係人口の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的視点を持った行財政運営 コンパクトな町域を活かした住民同士の顔が見える関係性の構築 豊かな自然環境を生かした地域内外の人とのつながりの機会を創出 戦略的投資による町の価値向上

Q. ストリートスポーツとは

- 街中の道路での遊びから派生したBMXやスケートボード競技などを指す
- 東京オリンピックでは若者に人気のあるスケートボードなどが採用され、日本人のメダルラッシュとなった
- パリオリンピックでも日本人がメダルを獲得し、若者や子どもを中心に競技人口が増加している



Q、ストリートスポーツの特徴とは？

→ 若い人のニーズにマッチ

- ・音楽やファッション、アートなどの若者文化との融合
- ・ビジネスに抵抗がなく、民間を巻き込んだ事業展開に適している

娯楽

趣味

スポーツ

買い物

食事

若い人の価値観にマッチ

- ・自分らしさを表現できる（選手は固有のトリックを持っている）
=スポーツ×アート（スポーツ選手でもあり、アーティストでもある）
- ・トリックを1つずつ習得していく。
- ・多様な大会があり、多くの大会は誰でも参加できる。

自分らしさ

自己実現

寒川町の強みにマッチ

- ・人や時間に縛られない（多様に接続するつながりが持てる）
- ・多様性がある（認め合う文化がある）
（年齢、男女、国籍、うまいへたに関係なく、一緒に練習や勝負することができる）

人とのつながり

今後の発展性が高い

- ・東京オリンピックから正式種目になり、日本人が優勝した。
- ・一方で屋内施設は充足していない。

競技人口が増加中

Q、寒川町にストリートスポーツは馴染むのか。

→ 寒川町らしさとの親和性が高い。

寒川町はブランドスローガンを『「高座」のころ。』とし、「穏やかさ」「優しさ」「あたたかさ」という寒川らしさを大切にし、未来へ継承することとしています。

ストリートスポーツは、競い合う面もありますが、それ以上に**認め合う文化**があり、寒川町ブランドとの親和性が高いスポーツです。

東京オリンピックでも話題になっていたとおり、ストリートスポーツは、滑り終えた選手たちが国籍にかかわらず互いの健闘を**称え合う**姿など、今までの“常識”に当てはまらないスタイルです。

また、子供からプロの競技者まで、性別や国籍を超えて、みんなが同じフィールドで練習しています。**多様なひとが尊重し合い**ながら練習することで調和が生まれています。



Q、寒川町の強みとは？



→ 穏やかさ・優しさ・あたたかさを感じられる町民性がある。

(寒川神社のイメージもあり、町民性のイメージも町外に伝わっている)

町の面積が約13.42 k m²と小さく、人口も約49,000人と少なく仲間意識が高い。

→ **人とのつながり** をつくるのに適した町民性、土地。

※つながりをつくる際の注意点

若い人の求めるつながりが変化し、
「所属するつながり」から「**接続**するつながり」へ

ちなみに

これらのことも踏まえて、

寒川町の総合計画のまちの将来像を「つながる力で 新化するまち」とし、
こころ豊かな暮らしを実現できるように行政運営している。

Q、寒川町の強みとは？

→ **ストリートスポーツ** を軸に世界で活躍する選手が集まってきている。



BMXフラットランド

【移住】

内野洋平
田圓直人
森谷天斗
片桐 悠

11度の世界チャンピオンに輝いている。ストリートスポーツのアイコン的存在。
ARK LEAGUE(全国)優勝。など
ARK LEAGUE(全国)準優勝。など
X-GAMES(世界)優勝。ARK LEAGUE(全国)優勝。など

【移住予定】

片桐 亮

FISE(世界)優勝。など



スケートボードストリート

【移住】

白井空良
藤澤虹々可

ARK LEAGUE(世界)優勝。X-GAMES(世界)優勝。SLS(世界)優勝。東京五輪7位。パリ五輪4位など
スケートボードストリート(世界)優勝。日本オープン優勝など

【移住予定】

織田夢海

CHIMERA(世界)優勝。ストリートスケートボード(世界)優勝。X-GAMES(世界)3位など



Q、寒川町の強みとは？

→ **世界で活躍する選手たち** が求心力となり若い人が集まるまちになりつつある。



世界大会の開催がきっかけに



世界チャンピオンが寒川に移住



町外から練習に集まる子どもたち



親子で楽しめるパークを設置



日本中から集まる選手たち

寒川町だけの魅力創出

若い人に寒川町を選び続けていただき、持続可能なまちづくりを進めていくために**寒川町の強み**である **ストリートスポーツ** をONLY-ONEとして尖らしていく。

全国的にストリートスポーツ施設は増加しているが、寒川町には求心力のある選手たちが寒川町に移住している。この **世界で活躍する選手たち** こそが世界唯一の**寒川町だけの強み**である。

ストリートスポーツの特徴を生かし、**若い人のニーズ**である **買い物** **食事** **娯楽** **趣味** を中心に充実させていくとともに、**若い人の価値観**である **自分らしさ** や **自己実現** に寄り添った展開をしていく。

ストリートスポーツを通じて **人とのつながり** をつくることで、人がひとを呼び、多くの若い人が寒川町の関係人口となり、生産年齢人口の確保を図る。

ストリートスポーツ推進の課題と取り組み

一般的な課題

道路や公園での練習による通行人等との事故の危険性

練習する場所がなく、道路や公園でしか練習ができず、通行人等に接触する事故が発生している。

騒音問題

スケートボードは着地時などに大きな音が発生し、近隣住民とのトラブルが発生している。

活動団体の脆弱さ

競技人口が比較的少ないことから活動団体が小規模で財政的にも人材的にも脆弱である。

参照：文部科学省HP「アーバンスポーツツーリズム推進に向けた論点整理」



寒川町の取り組み

内野選手（BMXフラットランド）と寒川町が協力し、ストリートスポーツを通じて寒川町独自の魅力の創出を進めている。

内野選手がBMXフラットランドとスケートボードストリートの**屋内**練習場「THE PARK SAMUKAWA」を町内に開設している。

寒川町は、町内の**子どもたち**向けの無料練習会などを通じてストリートスポーツの推進に関する取り組みを推進している。

事故の危険性 0

騒音緩和

脆弱性緩和

ストリートスポーツ推進の課題

■ 音響を使用する大会の開催

関係人口を効果的に獲得するために、音響を使用する環境を整え、大規模なイベント・世界大会が開催できるようにする必要がある。

■ 誰もが親しみ、楽しめる環境形成

全国から選手などが集まれるように、子どもからトップ選手までが親しみ、楽しめる環境を形成する必要がある。

■ 若い人のニーズの充足

若い人に選ばれるために、若い人やファミリー層のニーズである買い物、食事、娯楽などを満たす必要がある。

ストリートスポーツ推進に向けた今後の取り組み

■ 新たなパークの建設

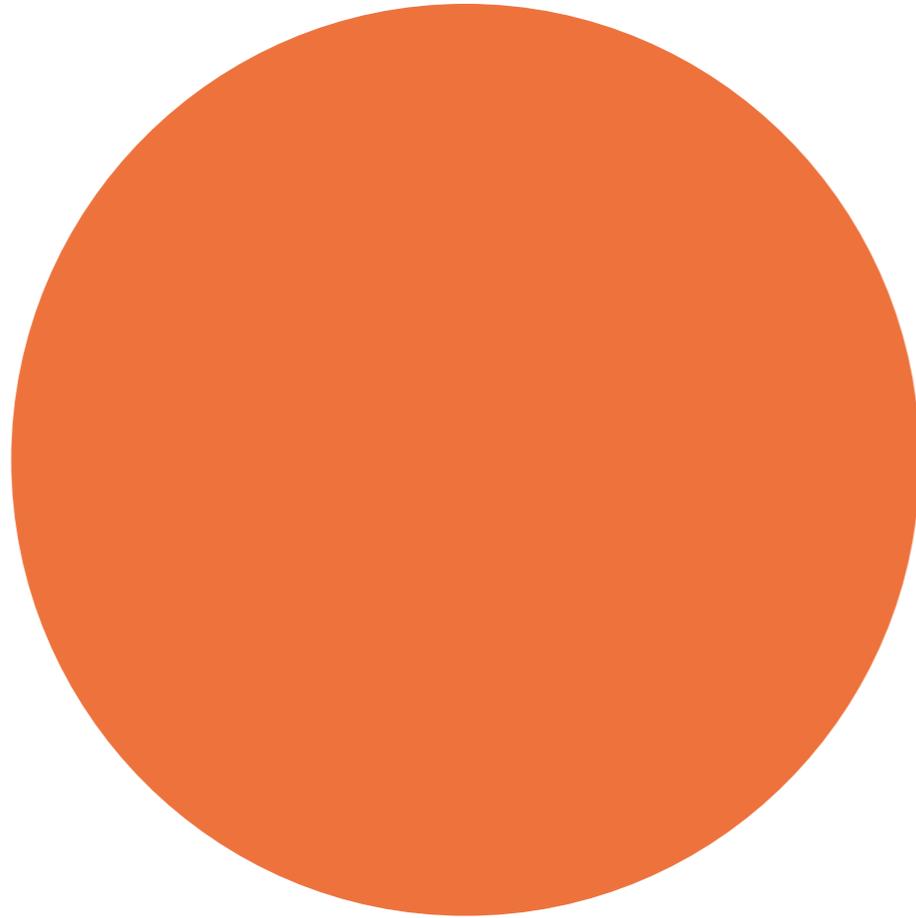
新たなパークを建設し、全国から集まる選手が練習できる環境を整える。
また世界大会開催や多くの方が練習を見学できるように観客席なども整える。
さらに若い人のニーズを踏まえ、民間との連携によるさらなる魅力創出を図る。

にぎわい創出

十分な広さ確保

ニーズ対応

ニッチなストリートスポーツの優位性



競技人口が**多い**スポーツ



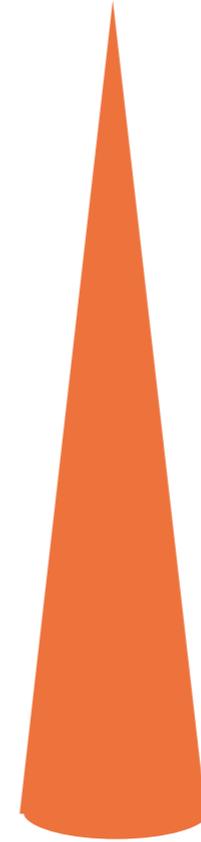
競技人口が**少ない**スポーツ

ニッチなストリートスポーツの優位性



競技人口が**多い**スポーツ

- ・施設の競合が多く差別化が図りづらい
 - ・近隣の住民しか訪れない
- = 地方創生ではなく住民サービス向上



競技人口が**少ない**スポーツ

- ・施設が少なく差別化が図りやすい（日本、世界で唯一）
 - ・日本中、世界中から訪れる
- = 地方創生として効果的

新たなパーク建設は地方創生に効果的か？

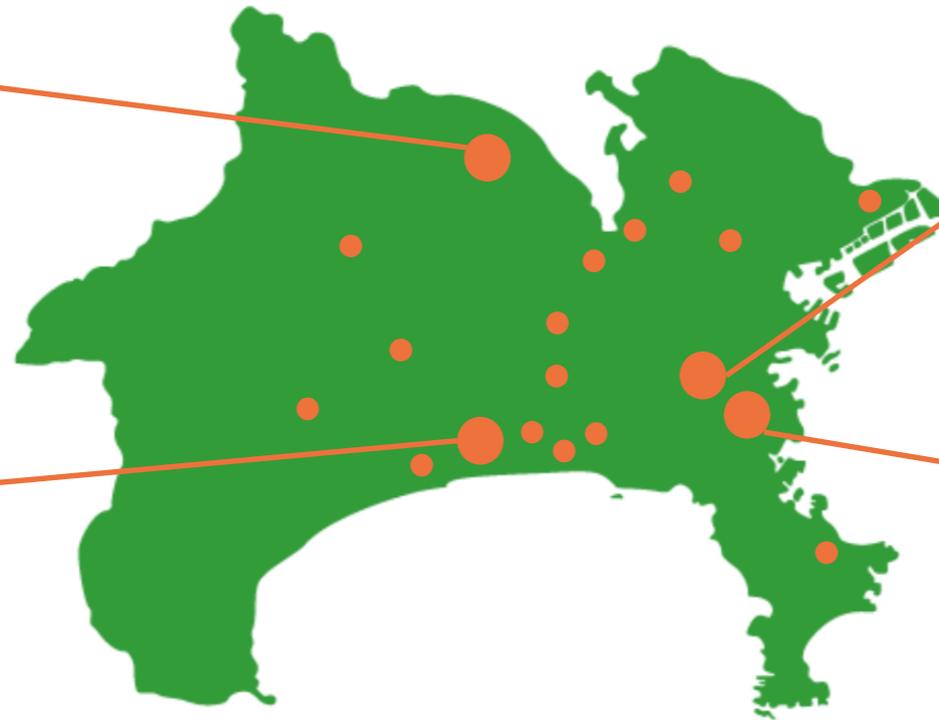
神奈川県内の主な施設と寒川町の施設



小山スケートパーク（公設・相模原市）



湘南わくわく広場（公設・茅ヶ崎市）



新横浜公園（公設・横浜市）



本牧市民公園（公設・横浜市）

屋内練習場は少ない。公民連携している施設はない。プロ仕様の施設はない。
BMXフラットランド練習場（誰でも利用できる）は寒川町が世界初。現在、国内に他に1か所（埼玉）。
スケートボードとBMXフラットランドが練習できる施設は世界で唯一。
若者のニーズを満たした（カフェ、お店、音楽など）施設はない。
プロが在中する施設はない（見られる／教えてもらえる）
→ 寒川町では、公民連携で若者のニーズを満たした初心者～上級者が利用できる屋内施設を整備する予定。
寒川町は県のほぼ中心で圏央道ICがあるなど、**県内外からアクセス**しやすい。
相模川に隣接してパークを建設することでちよこっと田舎でオシャレに暮らせる印象も伝えられる。

地図は国土地理院「基盤地図情報データ」をもとに神奈川県が作成したものを編集・加工しています。23